

日本財団助成

「ウクライナ避難民の地域共生実現に向けた包括的支援」

事業完了報告書

NPO 法人名古屋外国人共生支援協会
理事長 山崎昌善

1. 事業名

ウクライナ避難民の地域共生実現に向けた包括的支援

2. 事業概要

本事業の目的は、ウクライナ避難民へ日本文化交流事業を実施し日本文化への理解の深化を図り、その活動を通じて他団体と協力して生活に課題がある方へアウトリーチ活動を実施し、自立に向けた寄り添い支援を行い、避難民が孤立しない地域共生社会の実現を目的とする。

- a. 避難民の生活に関する相談対応
- b. 日本語、日本文化、法律等の体験型交流会の実施と食料の配布

3. 目標

- ①. 一年後に避難民の生活困窮者をゼロにし、避難民の80%が孤立せず、外部との接点を持つ状態にする。
- ②. 日本文化交流事業を月1回実施する。
- ③. アウトリーチ事業を月2回実施する。

4. 活動の成果

- a. 避難民の生活に関する相談対応
生活相談件数63件
アウトリーチ件数33件

〈活動の振り返り〉

相談事業の内容は、学校の準備、部屋探し、海外受験、子供の発育、不眠、人間関係など多岐にわたり相談件数は63件ありました。愛知県のウクライナ避難民への支援制度が複雑なこともありその相談や問合せも何度かありました。女性や子供の相談が多く、保育士の力を借りて解決することもありました。相談を受けた方の中には地理的要因等で支援の空白地にいる方々もいて、様々な支援が滞って孤立している世帯がありました。私たちは避難民が支援の手から取り残されることがないように訪問支援に力を注ぎました。



<訪問先にて撮影>

b. 日本語、日本文化、法律等の体験型交流会の実施と食料の配布

	日程	行事名	講師/案内人	参加ウクライナ避難民数	参加日本人数
第1回	2022/8/16	ガイドダンス	山崎昌善	8名	2名
第2回	2022/9/23	フラワーアレンジメント	高田佳子	10名	5名
第3回	2022/10/30	レゴランド観光	高橋立	4名	3名
第4回	2022/11/23	ウクライナ料理ホームパーティ		4名	4名
第5回	2022/12/17	京都文化体験ツアー	高橋立	4名	3名
第6回	2023/1/4	降誕祭お楽しみ会	山崎昌善	9名	6名
第7回	2023/2/12	セミナー「ウクライナ避難民の共生に向けて」	雑賀昭	1名 オンライン参加	13名
第8回	2023/3/27	オンライン交流会	山崎昌善	4名	4名



<第2回フラワーアレンジメントの光景>

〈活動の振り返り〉

文化交流イベントは当初ウクライナ避難民30名参加で計画していましたが、毎回10名以下での実施となってしまいました。イベントの告知は、日本ウクライナ文化協会の協力のもと協会内でのチラシの配布、チラシの掲示をし、支援団体のオンライン会議「ウクライナ避難者支援のための情報共有会議」でも告知を行いました。また名古屋市だけでなく近隣市町村（長久手市、大府市、日進市、尾張旭市、安城市、瀬戸市、豊田市）の担当者にも連絡を取りイベントの告知を実施しました。このようにできる限りで募集を実施したうえでの実績人数です。参加人数が少なかったのは、事業開始の時期とコロナ第7波が重なり外出を控える傾向があったことと、支援団体の増加により各地でさまざまイベントが開催され参加者が分散したものだと思われます。日本文化交流と銘打っていましたが、ウクライナ避難民からの発案でウクライナ文化を紹介して頂きながら交流をした会もありました。イベントの回を重ねるごとにウクライナ避難民の自然な笑顔を見る機会が多くなり、日本の生活において心が休まる時間を提供できたと感じました。

- 第1回 講師は当法人代表の山崎が務めました。当法人の今後のイベントスケジュールと生活で使う日本語の説明を行いました。
- 第2回 講師は FLower ゆめかごの高田様をお招きしました。アーティシカルフラワーと、プリザーブドフラワーを用いました。お花は好みの色を組み合わせることができ、皆様いろいろと悩みながら選んでいました。世代も国籍もバラバラでしたが、和気あいあいと協力しながら、全員フラワーアレンジメントを完成させることができました。
- 第3回 言葉の壁なく楽しめる環境が整っているレゴランドを体験しました。遊びながら日本人とウクライナ人が自然に交流できる貴重な機会を持つことができました。ミニランドのエリアでは、日本中の様々な景色や観光名所がレゴブロックで再現しており、ウクライナの方に、お手軽に日本一周気分を味わって頂くことができました。
- 第4回 ウクライナ避難民からの発案でウクライナ料理パーティを開催しました。メニューはボルシチ、ピロシキ、ミモザサラダ、パプリカの肉詰め、アップルケーキです。日本にしながらウクライナの食文化を堪能でき日本人に好評でした。
- 第5回 ウクライナの方を連れて京都文化体験ツアーを行いました。文化歴史を学ぶために事前に清見水寺と金閣寺について学習する時間を設けました。ウクライナの方々が日本の食文化と古都京都の歴史・文化に触れることができたツアーになりました。
- 第6回 ウクライナ避難民から教えて頂いた名古屋ハリストス正教会で聖体礼儀を見学後、交流会を行いました。この降誕祭の聖体礼儀に参加しウクライナの人たちの文化の理解を図ることができました。

- 第7回 『ウクライナ避難民の共生に向けて』というテーマのセミナーを開催しました。講師にオアシス行政書士事務所代表の雑賀昭先生をお招きしました。雑賀先生からは実体験に基づく外国人との共生についての諸問題をお話し頂きました。講師自身の実体験に基づくとてもリアルなお話が大変参考になりました。『共生支援とは何か』ということを考えさせられ、参加者一同とても良い刺激を受けることができました。
- 第8回 本事業終了の締めということでささやかなオンライン交流会を行いました。一端の区切りとなりますが、引き続き必要な支援はするというをお約束しました。

5. 目標の達成状況

- ①. 一年後に避難民の生活困窮者をゼロにし、避難民の80%が孤立せず、外部との接点を持つ状態にする。

私たちが事業期間内に対応した避難民総計23名に確認したところ、その内19名は他団体との定期的なつながりがあり完全に孤立しているという状況ではありませんでした。他団体の支援が手厚く想定していたほど孤立はしておらず目標は達成できました。孤立していた残りの4名は当法人が定期的にサポート実施しました。

- ②. 日本文化交流事業を月1回実施する。

交流イベントを8月から毎月実施しました。その内訳は文化交流会7回、セミナー1回です。事業の開始が想定より2週間遅れ7月に実施できなかったことと、避難民が集まらない月もあり目標の月1回実施で全9回の計画うち、実施できたのは合計7回となりました。

- ③. アウトリーチ事業を月2回実施する。

毎月2回で合計18回の計画に対して合計33回を実施できました。

6. 他団体との協力連携

NPO 法人 日本ウクライナ文化協会

事業開始時に事務所に訪問させて頂き、中部地方のウクライナ避難民について情報共有させて頂きました。イベントの告知においてもご協力を頂きました。

NPO 法人 レスキューストックヤード

訪問支援の際には情報共有をさせて頂きました。支援物資の選定などのアドバイスを頂きました。

名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科山本ゼミ

難民問題を学ぶ学生から問い合わせあり本事業を紹介しました。学生達がその内容をまとめて「難民支援はじめてガイド」を作成、取り組みは中日新聞でも紹介されました。